



▲外国人ALT (外国語指導助手) と楽しく英語を学ぶ子どもたち

# 特集 未来を担う「英語力」

グローバル化が進む近年、重要性が高まっている「英語」。今回は、英語を学ぶ子どもたちの声などを交え、町の英語教育の現状を紹介します。

問い合わせ 教育総務課

## グローバル化と日本の「英語教育改革」

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を間近に控え、急速にグローバル化が進んでいる日本。国際社会で活躍できる人材の育成に向けて、国は小・中・高等学校の英語教育の充実を図る「英語教育改革」を進めています。

### 岡垣町の英語教育の充実に向けて

このような中、町では子どもたちが楽しく英語を学べる環境づくりに早期から取り組んでいます。平成27年には、町のふるさと大使で文部科学省の「英語教育の在り方に関する有識者会議」の委員を務める安河内哲也さんをアドバイザーに迎え、「岡垣町英語教育改革ワーキングチーム」を結成するなど、英語教育環境の充実に努めています。また、小学校の教諭と中学校の英語教諭で構成される英語推進委員会では、英語教育に関する多く

の課題の解決に向けて議論を重ねています。

### どのように変わる？ 小学校の英語教育

現在、小学3～6年生の授業では、音声を中心に英語でコミュニケーションを図る「外国語活動」を行っています。この活動は、「聞く」「話す」といった基本的な動作を通じて、子どもたちが英語に興味を持つきっかけになっています。

令和2年4月からスタートする新しい学習指導要領では、特に小学校の英語教育が大きく変わり、3～6年生は授業の時間数が増える予定です(表1)。

表1 年間授業時数の変化

3・4年生	15時間 (週0～1時間)
5・6年生	50時間 (週1～2時間)
令和2年4月から	
3・4年生	35時間 (週1時間)
5・6年生	70時間 (週2時間)

# 中学校に“つながる” 英語教育を目指して

小学5・6年生は  
英語が正式な教科に

来年4月からはこれまでの外国語活動に加え、5・6年生の英語の授業に「読む」「書く」の2つの項目が追加され、英語が正式な教科になります。これにより、国語や算数などと同じように評価も行われるようになります。

また、覚えるべき英単語の数も定められました。現在、中学校を卒業するまでに学ぶ英単語の数は約1200語。小学校では、半程度の600〜700語を学ぶこととなります。

町では、外国人と日本人両方のALT（外国語指導助手）が小学校の授業を支援しています。外国人ALTと英語を学習すると、子どもたちが正しい発音方法を身に付けやすいほか、実際に外国人と触れ合って会話することで、英語に慣れ親しみ、理解を深めやすいという利点があります。

一方、日本人ALTは、英語の学習でつまづきやすいところを日本人の視点で説明できるほか、担任と授業の内容を綿密に打ち合わせることもできます。

また、町独自の取り組みとして小学1・2年生から外国語活動を行っています。これにより、3年生からの活動へのスムーズな移行を目指しています。

充実した教育体制で  
子どもたちの学習をサポート



▲外国人ALTと児童たちのコミュニケーションの様子

町内の小学生にインタビュー 

## Q.「英語」への思いを聞かせて！



ALTのブライアン先生とは、普段から英語でいろいろなことを話しています。また、僕の将来の夢はラグビー選手になることなので、いつかは外国の選手と英語で交流したいです。

海老津小学校5年生  
安藤 聖空くん（海老津風の森区）

駅の近くのバス停で外国の人に話しかけられたとき、英語であいさつできたので「英語を勉強していて良かった」と思いました。英語の勉強では単語を覚えるのが好きなので、これからも新しい単語をたくさん覚えたいです。



戸切小学校6年生  
古川 桜助くん（戸切白谷区）

英語の授業は、ゲームなどで楽しく勉強できるので大好きです。将来はお医者さんになって、外国で働いてみたいです。



海老津小学校5年生  
松山 愛子さん（公園通り東区）

このほかにも、

- 英検4級にチャレンジした
- 修学旅行で外国人と英語で会話できた
- 英語で書かれた年賀状の内容が分かった
- 授業で英語の歌を歌うのが楽しいなどの声が多く寄せられました。



# 3年間の取り組みが育んだ 英語を「楽しむ」気持ち

岡垣町英語教育改革  
イニシアティブ2016

- ①電子黒板を使った授業は「楽しくて分かりやすい」と生徒に評判
- ②英語を話す・聞く力を高める生徒同士でのペアワーク
- ③英語教育アドバイザーの安河内哲也さんと中学校英語教諭によるワーキング会議。英語授業の改善に関することなどを定期的に協議

## 生徒の英語力を高める 町独自の英語教育

町は、平成28年に「岡垣町英語教育改革イニシアティブ2016」を策定しました。これは町独自の英語教育改革で、子どもたちが効果的に英語を学ぶための環境づくりに貢献しています。

具体的には、デジタル教科書や生徒同士のペアワークの導入による会話意識の向上のほか、電子黒板機能付きプロジェクターを活用した授業の効率化などが挙げられます。

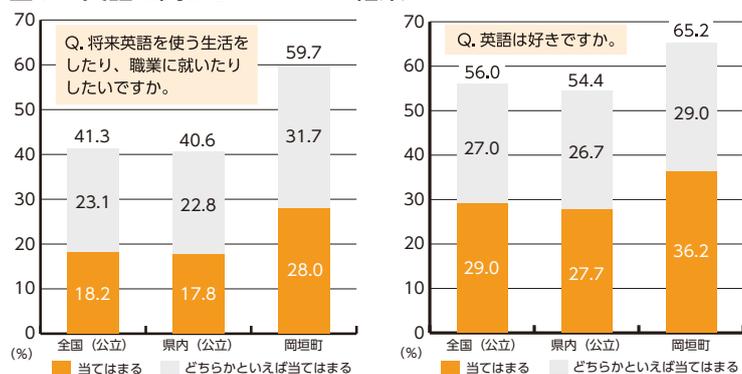
## 「英語が好き」という生徒が多い

全国の小・中学校では「全国学力・学習状況調査」が行われています。今年の調査では中学3年生を対象に、英語に関するアンケートを初めて実施。アンケート結果によると、町内の子どもたちは全国平均と比べて「英語に対する好意的な意識が高い」ということがわかりました(図1)。

## 中学校の英語教育は いつ変わる??

中学校の新学期指導要領は令和3年4月からスタートします。小学校とは違い、授業時数は変わりませんが、卒業するまでに学ぶ単語数が現在の「1200語」から

図1 英語に関するアンケート結果



「小学校で学習した単語に新単語を加えた2200〜2500語」に増加します。さらに、「授業は英語で行う」ことが基本となり、「話すこと」という技能もこれまでの「発表(一方方向)」に「やり取り(双方方向)」という区分が加わり、より実際のコミュニケーションを意識した授業が行われます。また、いずれの区分も「即興で話す」ことが求められているため、子どもたちは授業を通して、これまで以上に「英語で話す」ことに慣れていく必要があります。

## 授業に興味を持つ生徒が増えた

町の教育改革後、デジタル教科書やパワーポイントを利用した「見て学べる」教材を授業に取り入れられるようになりました。新しい教材を使うことで、授業に興味を持って取り組む生徒が増えたように感じます。また、英語力を上げるには音読を

繰り返すことが重要なのですが、従来よりも多くの方法で練習課題を提供することで、生徒たちが飽きにくい仕組みを作ることができました。これからも効果的な教材を活用し、生徒が興味を持って学びやすい授業を組み立てていきたいです。



岡垣中学校英語教諭  
寺田 晴子さん

町内の中学生にインタビュー 

## Q. 「英語」への思いを聞かせて！



3月に、友人と一緒に海外への短期留学を予定しています。申込用紙は英語で記入する必要がありましたが、日ごろから英語を勉強しているおかげで一人ですべて書けました。将来は、世界中の貧しい子どもたちのためにボランティア活動をしたいです。

岡垣東中学校1年生  
中西 萌々子さん(東松原区)

英語の授業では、ペアワークの時間にクラスメイトと英語で会話するのが特に楽しいです。  
僕は海外の音楽を聴くのが好きなのですが、最近はお歌の意味が分かるようになってきました。



岡垣中学校3年生  
山下 大地くん(海老津風の森区)

このほかにも、  
●ALTと気軽に話せるのが楽しい  
●英語を使う職業に就きたいなどの声が多く寄せられました。

## 先生と生徒の二人三脚で英語を楽しんでほしい

英語教育アドバイザー 安河内 哲也さん



### 小学校の英語教育はスタート時期

幼少期の英語教育は大切ですが、日本のように英語を日常的に使わない国で英語を習得するには、時間がかかります。まずは子どもたちが英語を「楽しむ」ことを前提に、あくまでも「スタート時期」と考えましょう。

### アンケート結果が示す「英語への意識」

英語の習得の過程では中学校の初期が重要で、音声活動を取り入れるなどの授業内容が求められます。岡垣町の先生は、数年前からこのことに真剣に取り組

んでおり、中には、全国の模範と言えるほどの授業もあります。アンケート結果を見ても、町内の中学生が持つ英語への意識が、全国の指標を上回っていることが分かります。

### 町の子どもたちに一言「皆さんが授業の主役に」

英語の授業の主役は先生ではなく、生徒の皆さんです。皆さんが自らの耳や口、手を使って、英語力を身に付ける——。そんな授業を作っていきましょう。これからは先生や友達と一緒に英語を楽しんでくださいね。

佐々木 敏幸  
教育長



## まずは英語を「好き」になること

岡垣町では、アドバイザーの安河内哲也さんの指導のもと、子どもたちが英語への理解を深められるよう、小学校から中学校まで切れ目のない英語教育を行っています。

英語力を高めるには「好きこそ物の上手なれ」という言葉があるよう

に、まずは英語を体験して好きになることが大切です。教育を通じて、「英語で話したい・気持ちを伝えたい」という子どもの「想い」を育てることが一番だと思っています。

英語が好きなお子どもたちが、将来世界で活躍することを期待しています。